

Fun

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

vol. 10

フクヤスタッフの自邸

それぞれが見つけた、じぶんらしい暮らし。



小さく建てて、大きく暮らす。

建築士夫婦の家づくりの最適解。

小さく建てて、大きく暮らす。

落ち着いた色合いの塗り壁と木張りの調和のとれたやさしい外観で、田園風景に溶け込むように佇む内田邸。当社で戸建事業部部長を務める内田福子は、夫婦ともに建築士。そんなふたりが10年前に共に作ったのは、27坪のシンプルな総二階の家。コストやメンテナンス性を考えられる限り面積を小さく、本物の素材を使用することにこだわったという。

室内は畳や障子、無垢床と珪藻土の塗り壁が使われた和モダンの落ち着いた空間。あえて低めに抑えられた階高のおかげか、リビングの吹き抜けにとられた大きな窓から視線が自然と外にむく。窓の外には庭先の草花や青い空がみえ、



部屋いっぱいに差し込むあたたかな日差しに、まるで木陰にいるような心地よさを感じられた。季節のいい時期は、窓を開けると風が爽やかに吹き抜けるそうだ。

本物の素材に、こだわる理由。

学生時代からの付き合いで、お互いの価値観に共感のあるふたりは、自邸図面の作成も阿吽の呼吸。特に打ち合わせもなく、共用のパソコンで空いた時間に代わる代わる作成を進めていったという。設計をする上で、なかでも譲れないポイントとしてふたりがこだわったのは、できる限り本物の素材を使用すること。クロスの代わりに壁には珪藻土やタイルが使われ、

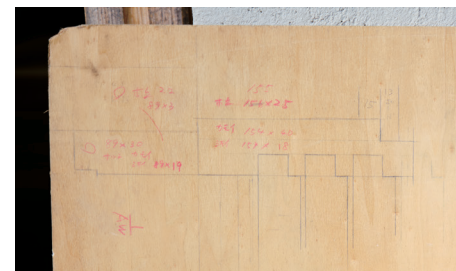


屋根を支える屋根垂木と野地板がそのまま内装の天井となっている。また、一般的な住宅では既製品が使われることが多い建具やキッチン・お風呂までもが造作で作られている。そのどれもが時を経て美しく味わいを増し、心地よい空間をつくり出しているのだ。さらに、本物の素材は調湿機能や消臭機能、断熱性といった機能性に優れたものも多く、耐久性も高い。10年経ったいまも、これといってメンテナンスに手間をかけたことはないという。

日々積み重なる愛着と、誇り。

自邸を建てたことで感じた仕事の変化について尋ねると、ご主人は「全部自分のやりたいように設計をしたことで、仕事にも自信ができましたね」と答えてくれた。どちらかというにご主人主導だったという自邸建築。当時勤めていた設計事務所にもあえて意見を求めず、自身で毎日仕事帰りに現場へ立ち寄り細かい納まりを指示するほどに入れ込んでいたという。そんな過程も思い出深く、当時現場で合

板に直接手書きをした実寸の詳細図は「いつか額装をして飾ろう」と大切に保管してあるのだとか。



建築士は、与えられた土地や予算などの条件のなかでどのような建物を建てるか、造形や構造を検討しながらデザインし図面を描いていく仕事。建築士であるふたりが、じぶんたちの最適解を見つけ日々を積み重ねる住まいには、愛着と誇りがしっかりと宿っていた。



内田邸

家族構成：家族4人
竣工年：2014年11月
構造：木造二階建て
施工面積：27.05坪

1. 開け放てる引き込み戸でありながら、玄関・和室・リビング3つの空間を仕切る障子はとても万能。断熱性も高いという。2. こだわりの高野槇風呂。誰もが憧れる木風呂は、工夫次第で意外にも低予算で叶えられるのだとか。3. 田んぼの広がる気持ちよい景色を目の前にした2階ホールの書斎は、家族共用。夫婦の書斎、そして子供たちのスタディスペースとして活用されている。

自邸を持つ フクヤスタッフ5名に 聞いてみました！

現スタッフのうち7名が、当社建築の自邸に暮らしています。それぞれ設計士や現場監督、営業など…立場はさまざま。家づくりのプロだからこそこのこだわりの住まいは、どんなところにこだわり、実際にどんな風に暮らしているのか。本人たちに聞いてみました。



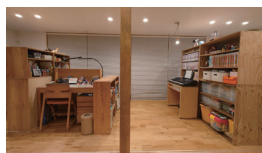
現場監督
Hさん

所属部署:民間・公共事業部 / 家族構成:5人 / 構造:木造平屋建て

①家事ができるだけ楽になるようなプランを考えました。(洗濯物を「洗う・干す・しまう」が1つの部屋で完結できる、玄関→パントリー→キッチンのひとつなぎの動線)

②DIYで収納棚などの簡単な家具を作ったり、家族でBBQをしたり。子供達は庭でサッカーやバドミントンをするのが好きみたいです。

子供部屋の家具は、机と椅子以外はすべてDIY→



③使い勝手やメンテナンス性など、自身の経験を通して、実際に使用する人の目線で考えるようになりました。

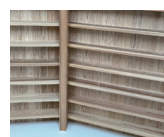


営業補佐
Kさん

所属部署:戸建事業部 / 家族構成:2人 / 構造:平屋建て

①取り入れたい事の優先順位を大事にしました。自分達で整理もでき、取り入れなかったことも完成時には必要なかったんだと納得のいく家づくりになりました。

②何をやるわけでもなく夫婦でリビングに寝転びながら過ごす時間。化粧梁の天井を見上げて「クジラのお腹の中にいるみたい」と夫がいつも楽しそうにしています。



③家づくりの過程や住んでからの実体験をお客様にお話しすることができるので、少しでも参考にしていただけるように会話に取り入れています。



営業
Tさん

所属部署:戸建事業部 / 家族構成:4人 / 構造:木造二階建て

①ほぼ家内に任せましたが、共働きということで、家事動線と室内の洗濯干し場の位置をこだわってました。

②ほとんど家にいないですが…。ライトアップされた高知城を見ながら飲む、仕事終わりのビールが格別ですかね。

③実際に使ってみて便利なところや、これは失敗したというところをお客様に自信を持ってアドバイスできるようになりましたね。



設計士
Kさん

所属部署:リノベーション事業部、E&G事業部 / 家族構成:4人 / 構造:平屋建て

①真物の素材にこだわり、間取りも見たい目なるべくシンプルに意識して設計しました。また将来の夫婦での過ごし方や子供の事なども話し合いながら部屋の大きさやスペース、機能など無駄がないよう決めていきました。

②子供がよく庭でサッカーをしたり夏はプールで遊びます。その様子を室内からゆっくりと眺めながら音楽やお茶を楽しむ時間が好きです。リビングの窓も大きく取ったので自然と外に向けた生活になりました。



③自分のオヘソが出来たような気がします。居場所が出来た感覚が凄くありました。守られていると思うから仕事も頑張れます。また、お客様に対しても「気持ちをしっかりと汲み取り、想像以上のものを提案していきたい」という思いがより強くなりました。



現場監督
Hさん

所属部署:戸建事業部 / 家族構成:4人 / 構造:木造二階建て

①夫婦共働きなので、家事や子育てをしやすい家づくりにこだわりました。LDKの間取りも、子どもの様子を見ながら家事ができるように一直線に配置しています。

②子どもが寝静まった後にお酒を飲みながらスポーツ観戦するのが至福の時間です。テレビ背面のアクセントウォール「エコカラット」も気に入っています。

③現場監督としての自分に住まい手の目線が加わったことで、自然と家を完成させたあとの「暮らし」にまで配慮した仕事ができるようになりました。

なくしたいのは“生活感” すっきり暮らす 造作収納活用法



整理収納
アドバイザー1級
石川 藍

所属:業務推進事業部広報課
家族構成:4人
構造:平屋建て

丁度家づくりを計画しはじめた頃に、整理収納アドバイザーの資格に出会ったため収納計画にはこだわりました。ライフスタイルや用途によってミリ単位で設計、施工される造作収納は、家とぴたりと合わせ、美しさと無駄のない機能性を同時に叶えてくれます。



POINT オープン棚は
-02- 収納ボックスと組み合わせる

ランドリールームのオープン棚には、無印良品の収納ボックスを組み合わせて収納力を持たせました。無印良品の収納ボックスは、サイズ展開が豊富でおすすめです。事前に組み合わせる収納ボックスを決めておいて棚の高さや幅を計画するのも◎。



付け替え
かんたん！



POINT
-01- 可動棚は持ち物に合わせて美しく

キッチンの食器棚は、可動棚にして大正解。専用のクリップを付け替えるだけで、約1cm単位で高さが変えられるので、持ち物にぴったり高さを合わせると見た目もきれい。かごなどを上手に使える、さらにすっきりと見せられます。



(鏡位置/左)



(鏡位置/右)

POINT 「見せる、隠す」を上手に使い分け

-03- 洗面の造作収納は、鏡の扉が左右にスライド出来る造りになっているので片方を「飾り収納」にしておけば、ごちゃごちゃとした生活感をさっと隠すことができるので便利です。



本社3階には社員専用の窓際のカウンター席やボックス席があり、リラックスして昼食をとることができます。また社食をきっかけに、ランチミーティングや社員同士のコミュニケーションも活発になりました。

一般のお客様にも社食ランチ(プレート)をお召上がりいただけます。(平日限定11:00~14:00無くなり次第終了です。)



※写真は社員用ですので、ランチプレートとは見た目が異なります。

フクヤの社食

毎日忙しく働く社員が、健康やかな食生活をおくれるようにと、本社2階カフェFLAGでは、平日限定で社食を提供しています。栄養バランスを考えられた日替わり社食を、社員はワンコインで利用できます。

本社2階社食ランチが食べられるカフェ

CAFE FLAG

@bistrocafe_flag



吾川郡いの町にあるカフェ・ドッグラン

COCAGE Villa FUKUYA

@cocagevillafukuya



Next Issue

4月29日 発行

vol.11

人生を楽しむ暮らし

【発行元】

フクヤ建設株式会社

〒781-0015

高知市薊野西町3-35-29

☎ 088-845-4618

✉ fukuya@fukuya-h.co.jp

@fukuya.kochi